

日本山岳会所蔵資料紹介 No.3

〔資産番号〕 00360

〔資料名〕 横 有恒愛用、初代シェンクのピッケル

〔部門名〕 登攀用具

〔寄贈者〕 今西寿雄

〔受入日〕 1985年8月14日



ブレードは平刃で三角形



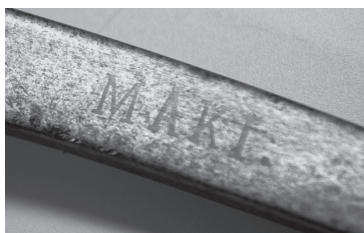
美しいカーブ



「頭抜(ずぬ)き」



「シェンク」の銘



「MAKI」の文字



補強・修理のあと

横有恒が所蔵・愛用した「シェンク」のピッケルである。刻まれたシェンクの銘、ヘッドの美しいカーブ、三角形の平刃のブレード、鋭く尖った細身のピック先端などから、初代クリスチャン・シェンク (Christian Schenk, 1861~1926) が晩年に鍛えたものと思われる。

横は1921年、アイガー東山稜初登攀を果たして帰国。そのとき、スイスから持ち帰った「シェンク」を日本に初めて紹介した。横はほかに3本のシェンクを所有していたといわれ、そのうちの1本が今西寿雄に贈呈され、今西から日本山岳会に寄贈された。

シャフト部分は木製で長さ80センチ、ピックからブレードまでは30センチほど。ヘッドの片面に「シェンク」の銘が、もう片面には「MAKI」と刻まれている。石突きより上5センチほどの部分に銅線を巻きつけて補強・修理の跡があり、大切に使用していた様子がうかがわれる。

なお、日本山岳会ホームページ→委員会活動→資料映像委員会→所蔵資料紹介へとアクセスすると、「会報ページそのもの」を拡大して見るができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。 ☒ jacshiry0102@jac.or.jp

日本山岳会会報 山 817号

2013年(平成25年)6月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 尾上 昇
編集人 柏 澄子
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社

彼女の気持ちのよう。(柏 澄子)

◆編集後記◆
●先月、濟州島のロングトレイル(のぐく一部)を歩いてきた。風の強い濟州島では、家を石垣で囲っており、石垣沿いに隣の家へと続く小路をオルレという。海岸線を一周するこのトレイルの名もオルレ。島出身の女性が大学進学でソウルへ渡り、その後50歳までキャリアを積み重ねたものの、行き詰まりのようなものを感じて仕事を辞め、旅先で出会ったのが、スペインのサンディエゴ巡礼の道。この時故郷にも美しい自然景観があったと気づき、トレイル整備に乗り出す。トレイルの標識は、島にいる小型の馬カンセがモチーフになっている。カンセには、「怠け者」という意味もあり、オルレをゆつくり歩いて味わってね、という